民族主義にたいする認識

朝鮮・平壌

外国文出版社

チュチェ 97（2008）

民族主義にたいする認識

朝鮮・平壌
外国文出版社
チュチェ97（2008）

まえがき

人類の思想史には数多くの思想、理論が存在したが、民族主義のように正しく認識しがたい思想は未だかつてなかった。民族の利益にたいする自分なりの解釈、民族主義を階級的支配の思想的手段として利用しようとする傾向が現われ、相反するさまざまな思想潮流が民族主義のベールをかぶって歴史舞台に登場した。たとえば、近代の帝国主義の侵略に反対する弱小国家人民が掲げた闘争の旗じるしも民族主義であり、帝国主義者もかれらの侵略策動を「民族の利益」のためであると正当化した。これは、民族主義を正しく認識するうえで少なからぬ混乱をまねいた。

金正日（キムジョンイル）総書記は2002年2月26日と28日におこなった朝鮮労働党中央委員会の責任幹部への談話『民族主義にたいする正しい認識をもつために』で、民族主義の本質とその進歩性、ブルジョア民族主義の虚構性と反動性、民族主義と共産主義との相互関係、民族主義と国際主義との相互関係、民族問題をりっぱに解決した金日成（キムイルソン）主席の業績、民族主義にたいする朝鮮の立場とそれを具現するための課題について全面的に明らかにした。

本書は、金正日総書記の著作『民族主義にたいする正しい認識をもつために』の基本内容を解説したものである。

編　集　部

現代は人民大衆が自己の運命を自己の手で切り開いていく自主性の時代である。国家と民族の自主性を固守し、その自主的発展をなし遂げてこそ、国家と民族の構成員としての人民大衆の運命が成功裏に開拓され、かれらに自主的で創造的な生活を保障することができる。

国家と民族の自主性を固守しその富強発展をなし遂げるためには、民族主義にたいする正しい認識をもつのが大切である。民族主義にたいする正しい認識をもってこそ、民族の団結を実現し、民族の利益を守り、民族の運命開拓に貢献することができる。

これまでの歴史を見れば、民族主義にたいするさまざまな認識が存在したが、主に民族主義を否定的に見る見解が支配的であったといえる。

とくにこんにち、アメリカを頭とする帝国主義者が他国と他民族にたいする侵略と略奪を正当化するため、民族主義を中傷し否定する思想的・文化的攻撃を悪辣に繰り広げている状況のもとで、民族主義にたいする誤った見解が広く流布している。

現実は、民族主義にたいする正しい認識を確立することが、帝国主義者の狡猾かつ悪辣な策動を粉砕し、人民大衆の自主性を固守するうえで提起されるさし迫った問題であることを示している。

金正日総書記は著作で、民族主義の発生、発展過程を分析し、それにもとづいて民族主義の本質と進歩性について明示した。

民族主義は、民族が形成され発展するに伴い、民族の利益を擁護する思想として生まれた。民族が形成される時期は民族によっ

て異なるが、個々の民族は血筋と言語、地域と文化生活の共通性をもとに歴史的に形成され強固になった社会的集団であり、各階級、各階層によって構成されている。どの国、どの社会であれ、民族から遊離して民族の外にいる人はいない。人々は各階級、各階層の構成員であると同時に、民族の構成員でもあり、したがって階級性とともに民族性を有する。階級性と民族性、階級的要求と民族的要求は不可分の関係にある。

もちろん民族を構成する各階級、各階層はかれらの相異なる社会的・経済的地位からして、階級的要求と利害関係が異なる。しかし、各階級、各階層の利害を超越して民族の自主性と民族性を固守し、民族の隆盛と発展を遂げることに関しては民族の構成員全体が共通の利害関係をもっている。それは、民族の運命はすなわち民族構成員の運命であり、民族の運命そのものに個人の運命があるからである。民族の構成員として、民族の自主権と尊厳が踏みにじられ、民族性が無視されても構わないと考える人はいない。自民族を愛し、民族の特性と利益を重んじ、民族の隆盛発展を求めるのは、民族構成員の共通の思想・感情であり、心理でもある。民族構成員のこうした思想・感情と心理を反映しているのが、ほかならぬ民族主義なのである。言い換えれば、民族主義は自民族を愛し、民族の利益を擁護する思想である。

人々は民族国家をよりどころにして生き、運命を切り開いていくため、真の民族主義はすなわち愛国主義だといえる。民族の利益を擁護する思想、国を愛し、民族を愛する思想であるというところに、民族主義の進歩性があるのである。

金正日総書記はまた、ブルジョア民族主義の反動性と民族主義

にたいする従来の理論の制約を分析し、共産主義と民族主義、民族主義と国際主義との相互関係について明らかにした。

民族主義は、民族の形成、発展とともに進歩的な思想として生まれたが、かつてはブルジョアジーの利益を擁護する思想として認識されていた。これは新興ブルジョアジーが民族主義の旗を掲げたという歴史的事実と、かつてブルジョア階級が民族主義を自らの階級的支配を実現する思想的手段として利用したこととも関連する。

もちろん封建制度に反対する民族運動の時期に、新興ブルジョアジーが民族主義の旗を掲げ、その先頭に立ったのは確かであるが、民族主義が初めからブルジョア階級の利益を擁護して発生したと見るのは間違いである。近代にいたり封建に反対し民族の統一と自主権を守るうえで人民大衆の利益と新興ブルジョアジーの利益が基本的に合致していたため、新興ブルジョアジーの掲げた民族主義の旗は民族共通の利益を反映するものとなった。

ブルジョア革命が勝利した後、資本主義が発達してブルジョアジーが反動的な支配階級となって以来、民族主義はブルジョア階級の利益を擁護する手段として利用されるようになった。ブルジョア階級は民族構成員にたいする搾取と抑圧を強化する一方、他国と他民族への侵略と略奪、戦争を強行し、これを「民族の利益」を擁護するためのものとして歪曲した。また民主主義的自由と権利、生存権のための人民大衆の闘争を、民族の団結を破壊し民族の利益を害する反民族的行為としてゆがめ、ファッショ独裁を「民族の利益と生存権を実現」するため不可避であるかのように捏造した。ブルジョア民族主義の典型的な形態はほかならぬヒ

トラー・ドイツの『国民社会主義（ナチズム）』であった。

　このようにブルジョア階級が自らの階級的利益を民族的利益の美名のもとに民族主義を階級的支配実現の思想的手段として利用したことから、民族主義は人々のあいだで民族の利益に反するブルジョア思想として認識されるようになった。

　民族を愛し、民族の利益を擁護する真の民族主義と、ブルジョア階級の利益を擁護するブルジョア民族主義は峻別しなければならない。民族主義の本質は、それが民族の自主的発展と富強繁栄を志向し民族性を重んじる民族構成員の共通した思想・感情と心理を反映した思想であるというところにある。これにもとづいて見ると、民族共通の要求と利益ではなく、ブルジョア階級の排外的で利己主義的な要求と利益を反映しているブルジョア民族主義は、真の民族主義に反するえせ民族主義であることが明らかになる。個人主義・利己主義を本性とするブルジョア階級の利益は、決して、民族共通の利益とはなりえず、民族の利益にたいする背信となる。

　ブルジョア民族主義は他国、他民族との関係においては民族利己主義、民族排外主義、大国主義として現れ、それは国家や民族のあいだに反目と不和をまねき、世界の人民間の友好関係の発展を阻害する反動的な思想である。

　金正日総書記はまた、民族主義と共産主義、国際主義の相互関係についても科学的に解明した。

　民族主義と共産主義、国際主義の相互関係を正しく解明するのは民族主義にたいする正しい認識を確立するうえで重要な問題として提起される。

社会主義・共産主義運動は人民大衆の自主性を実現する革命運動であり、国家と民族をよりどころにして切り開かれる人民大衆の自主偉業が他国や他民族の革命偉業と密接な連関のなかで発展するので、民族主義と共産主義、国際主義の相互関係を正しく認識してこそ、民族主義にたいする全面的かつ正確な認識をもったといえる。

従来の労働者階級の革命理論においても、民族主義についての正しい解明がなされていないため、これはさらに重要な問題として提起される。

従来の理論は、当時、社会主義運動において基本的な問題となっていた、全世界の労働者階級の国際的団結と連帯の強化に主に関心が向けられ、民族問題にたいしてはそれなりの関心も払われず、さらにはブルジョア民族主義が社会主義運動に大きな弊害を及ぼしたことから、民族主義を反社会主義的な思潮とみなされていた。したがって従来の理論では真の民族主義とブルジョア民族主義を峻別できず、ブルジョア民族主義を尺度にして民族主義と共産主義、国際主義の相互関係を考察したので、それについて正しく解明することができなかった。そのため、これまで人々は、民族主義は共産主義や国際主義と矛盾し両立しない思想であるかのように考え、民族主義を排斥したのである。

共産主義と民族主義が両立できない、とみなすのは誤った考え方である。

共産主義は労働者階級の利益のみを擁護する思想ではない。人民大衆の自主性の実現を基本理念とする共産主義は民族国家をよりどころにして実現されるので、国と民族を愛する思想を前提に

しなくては共産主義の階級的利益を実現することはできない。共産主義は労働者階級の利益とともに民族の利益をあくまで擁護する思想であり、真に国と民族を愛する思想である。民族主義もやはり、国家と民族の利益を擁護し、国と民族を愛する思想なのである。国と民族を愛するのは共産主義と民族主義に共通した思想・感情であり、そこに共産主義と民族主義が連合できる思想的な基盤がある。そのため、共産主義と民族主義を対立させ、民族主義を排斥するのは誤りである。

民族主義は国際主義とも矛盾しない。国家や民族のあいだで互いに援助し、支持し連帯し合うのが国際主義である。国ごとに国境があり、民族の区別があり、国家と民族をよりどころにして革命と建設が進められる状況のもとで、国際主義は国家間、民族間の関係であり、民族主義を前提としている。民族と民族主義を抜きにした国際主義は実際、なんの意味もない。国家と民族の自主的発展を妨げる国際主義は、真の国際主義ではなく、それは大国の民族利己主義、大国主義の野望をとげるために利用される。それぞれの国の革命家はなによりも自国、自民族の富強、繁栄のためのたたかいをりっぱにおこなうことで、国際主義に忠実であるべきである。自国、自民族の運命に無関心な者が国際主義に忠実であるはずはないのである。

金正日総書記は著作で、民族主義の問題をりっぱに解決した金日成主席の業績と、民族主義にたいする朝鮮の一貫した立場を明らかにした。

まず、主席が史上はじめて民族主義について正しく解明し、革命実践によって、民族主義問題をりっぱに解決したと指摘した。

金日成主席は、共産主義者になるためには、真の民族主義者にならねばならないと述べている。主席は、つとに国と民族のために一生をささげる覚悟で革命の道を踏み出し、不滅のチュチェ思想を創始し、それにもとづいてチュチェの民族観を確立し、民族主義の本質と進歩性を科学的に解明した。また、階級性と民族性、社会主義と民族の運命をもっとも正しく結びつけて、共産主義者と民族主義者の連合を実現し、わが国における社会主義の階級的基盤と民族的基盤を強固なものとし、民族主義者を社会主義建設と祖国統一の道へと導いてきた。金日成主席の度量と人柄にひきつけられて、多くの民族主義者が過去に別れを告げ、民族の団結と祖国統一のための愛国の道を踏み出した。一生を反共で通してきた金九（キム グ）も、晩年には連共へと人生の舵を切り替えて愛国の道を歩むようになり、崔徳新（チェドクシン）のような民族主義者もまた、金日成主席のふところに抱かれて、愛国者としての生を輝かせることができた。主席は朝鮮民族の自主性のみならず、世界の人民の自主性も大切にして擁護し、朝鮮革命だけでなく、全世界の自主化偉業のために労苦を尽くした。

金日成主席はもっとも堅実な共産主義者であると同時に、不世出の愛国者、真の民族主義者であり、国際主義者の鑑であった。

金正日総書記はつぎのように述べている。

「わたしもやはり、金日成同志が明らかにしたように、真の革命家、共産主義者になるためには熱烈な愛国者、真の民族主義者にならねばならないと主張します」

自国人民、自民族、自分の祖国のためにたたかう人が真の共産主義者であり、真の民族主義者、熱烈な愛国者なのである。自分

の父母、兄弟を愛さない人が国と民族を愛するはずがないように、自分の祖国と民族を愛さない人は共産主義者になれない。それで朝鮮労働党は、金日成主席の国と民族、人民を愛する崇高な思想をそのまま受け継いでおり、幅の広い政治をもって民族の各階層を一つに結束し、かれらを愛国の道へと導くためにあらゆる努力を尽くしている。

金正日総書記は著作で、現段階において民族主義を正しく発揚させ、民族の自主的発展と繁栄をもたらすうえで提起される重要な諸問題について明らかにした。

今日、民族主義に反対し、民族の自主的発展を妨げているのは、共産主義者ではなく帝国主義者である。

帝国主義者はかれらの支配主義的野望を遂げるために「世界化」「一体化」の看板を掲げて狡猾に立ち回っている。帝国主義者は、科学と技術が急速に発展し、国家間の経済交流が世界的規模で活発に進められている現状のもとで、自主的な民族独立国家建設の理念や祖国愛、民族愛といったものは「時代遅れの民族的偏見」であり、「世界化」「一体化」が時代の潮流であると宣伝している。

もちろん、科学と技術が発達し、国家間の経済交流が世界的規模で活発に進められるにつれ、科学技術と経済がかつてなく高いテンポで発展するのは事実である。だからといって、それが各民族の自主性と民族性を否定し、世界の「一体化」を主張する根拠とはなりえない。

民族の自主性と民族性を固守し、発展させるのは、歴史の主体である人民大衆の要求である。とくに、他国と他民族を支配し、

略奪して自国の利益をむさぼるのが帝国主義者の変わらぬ本性であり、冷戦終結後、傲慢になった帝国主義者が公然と力による世界の制覇を追求する状況のもとで、人民大衆の自主的志向と要求はいっそう強くなる。世界的な科学・技術と経済協力も民族の自主的発展と民族性の向上に役立ってはじめて意味があるのである。帝国主義者によって民族の自主権が翻弄され、民族性が抹殺される現状のもとでは経済が発展することはできず、たとえ発展するとしても民族構成員はその恩恵を被ることができない。世界的範囲で科学技術が発展し、経済交流が活発化するにつれて、民族の自主性と民族性を固守し、発展させようとする人民大衆の自主的志向と要求はいっそう強くなり、したがって個々の国と民族は自らの思想と制度、文化をもって自己の運命を自主的に開拓していく。それゆえ政治、経済、思想・文化を包括する世界の「一体化」などありえない。アメリカ帝国主義者の「世界化」「一体化」策動は、世界をアメリカ式の「自由世界」「民主主義の世界」に変え、アメリカがすべての国と民族を支配し従属させようとするものである。

　現代は自主性の時代である。人類の歴史は帝国主義者の支配主義的な野望と侵略政策によってではなく、自主性をめざす人民大衆の闘争によって前進するのである。帝国主義者の「世界化」「一体化」の策動は、自主性を志向する世界人民のねばり強い闘争によって破綻をまぬかれないであろう。

　すべての国と民族は帝国主義者の「世界化」「一体化」の策動を断固排撃すべきであり、すぐれた民族性を活かして、民族の自主性を擁護するために断固としてたたかうべきである。朝鮮が朝

鮮民族第一主義について強調するのも、民族性を活かし、民族の自主性を守るためである。

朝鮮民族第一主義精神は、朝鮮民族の偉大さにたいする誇りと自負、朝鮮民族の偉大さを永遠に輝かそうとする自覚と意志として発現される思想・感情である。民族第一主義を高く発揚してはじめて、いかなる難関や試練のなかでも民族の尊厳と栄誉を守り輝かし、民族の優秀さをいっそう発展させ、民族の富強繁栄をなし遂げることができる。朝鮮民族第一主義は今日、朝鮮において民族の利益を徹底的に擁護し、民族の自主性を実現するための朝鮮人民のたたかいを力強く推進する強力な思想的・精神的武器となっている。

金正日総書記はつぎに、今日、民族の自主性を擁護し実現するために朝鮮人民に提起されるもっとも重要な課題は、祖国を統一することであると指摘した。朝鮮の統一問題は、本質において外部勢力によって断たれた民族の血脈をつなぎ、民族の自主性を実現する問題である。

悠久の歴史と文化を創出し、愛国の伝統を受け継いできた朝鮮民族は、外部勢力によって半世紀以上も北と南に分割されている。

国土の両断と民族の分裂は、朝鮮民族の統一的発展を妨げ、全民族に計り知れない不幸と苦痛をもたらしている。

祖国の統一は朝鮮民族の死活をかけた要求であり、一致した意志であり、志向でもある。

2000 年の歴史的な北南両首脳の平壌（ピョンヤン）対面と 6・15 北南共同宣言は、民族の大団結と自主統一の新しい時代を開いた。

北南共同宣言には、祖国統一問題を朝鮮民族同士が力を合わせ

て自主的に解決するための原則と方途が全面的に明記されている。北南共同宣言は、「わが民族同士」の理念にもとづき、国と民族を愛する精神で貫かれた民族団結の綱領であり、祖国統一の大綱でもある。北南共同宣言を支持し、擁護し、確実に履行するところに自主と平和、祖国統一の根本的な保証があり、真の民族主義者と売国奴を判別する基準がある。

朝鮮民族は今日、6・15 北南共同宣言の旗じるしを高く掲げ、祖国統一の歴史的偉業を成就するため、民族あげての闘争を繰り広げている。